

にしてやつて居る許りでなく、幼児自らをして、自分の發達性の意識を得、其の實現に適當なる方法を自ら撰擇し得る様に、即ち次第に自分で自分の發達をしてゆく様にならしめることを心がけなければならぬ。

バルマー氏は、尙之れについて詳しい説明を興へて居ますが、保育の實際上之等の箇條が如何なる事實を要求して居るかといふことは、大概御了解になつたことと思ふ。又既に御實行のことと思ひますが、之れ等の箇々の注意を、一つの「發達」といふ原理に統一して始終考へ居ることは、吾々の注意を一層明確ならしむるに効が少くないと思はれます。

小坊主が棒をひいても吉書城 (一茶)

書賃の蜜柑みい〜吉書城 (同)

摘 録

● 幼稚園教育 高島平三郎氏

幼稚園の効果

次には幼稚園の効果であります、先づ幼稚園は教育上効果があるといふ事を説く人の説を擧げて其次には害のあるといふことを説く人の説を擧げ最後に私の断案を御話して諸君の御意見を伺ひたいと思ひます。

幼稚園の利益を説く人は色々ありますが、亞米利加のスタンレー、ホールが三十人の信川すべき小學校の教師に幼稚園の効果に就て尋ねた結果を擧げませう、即ちホールは幼稚園から小學校に來た子供は一般の家庭から來た小供と如何なる違があるかに就て尋ねたのである、然るに其三十人の教師中で四人は幼稚園から來たものも家庭から來たものも同じであると答へましたが、其の外の二十六人は次の十ヶ條の長所を擧げて居ます、第一には言語が非常に優つて居る、即ち言葉が自由であつて現し方も巧妙である、第二は手が巧である、第三は敏捷である、第四は觀察力に富んで居る、第五は唱歌が上手である、第六は數の觀念が明かである、第七は仕事をすることを愛する、即ち何か自分で掃へたり動いたりすることを好む、第八は清潔である、家庭から直ぐに來たものは汚ない事も平氣であるが、幼稚園から來た子供は清潔を好む、第九は禮儀をよく知つて居る、第十は羞にかまない、といふのであります、それから獨逸のアイゼナツハンのヘアワルト

Elievert は十二ヶ條を列擧して幼稚園から来た子供の長所を擧げて居ります、第一は幼稚園から来た子供は學校に必要な習慣を守る、例へばちつとして先生の言ふ事を聴く之類です、第二は

夏冬通して氣候に慣れて居つて健康が宜い、第三は仕事を喜んで困難なる準備に愉快な練習をなす、何かする時にも勞を厭はないでやる、第四は他の子供と交際して他の人の事に注意する、例へば斯うしたら他の人の邪魔になるであらう、斯うしたら他の人の爲に宜くならうといふやうに注意する、第五は物事を取扱うに具體的表情を形、數、色等に依つて現はすことが出来る、第六は物の名を覺へ言葉の意味を知る、家庭市場の材料用具の性質用法を知つて居る、これは何んで出来るものだとか何にするものどかといふことを知つて居る、第七は唱歌を覺る譜に合せてやる運動を知つて居る、第八は年齢及び心力相當の歴史の話を覺える、第九は手の作用に熟して居る、第十は眼が練習されて居つて物を見るものが精密である、第十一は感覺力が優つて居つて内界の關係が密である、即ち物が眼に觸れると直ぐそれが感覺となり知覺となつて現はれることが密である、第十二は幼稚園の子供は愛情友愛の空氣及び道德宗教の勢力中にあるから、それが又家庭に入つて家庭の調和をよくする利益があるといふて居るのであります、それから私が現在の日本の信用すべき學校教師に對して、幼稚園の長所に就て質問を致しまして、其意見を求めたのであります、その長所として擧げられたものは概ね次の通りであります、第一は入學の當初境遇の變化の少い爲が心身の疲勞が比較的少い、第二は言語が一般に優良である、第三は動作が敏活である、第四ははにかみが少い、第五は遊戯唱歌の素養がある、第六は技藝に巧

である、第七は概して諸感覺が發達して居る、第八は姿勢がよろしいといふ長所が擧げてあります。

幼稚園の非難

四

次には幼稚園に就ては非難を擧げて見ませう、之にも色々の説があります、幼稚園は絶対にいけないといふのもあり、目的が良いが方法が良くない、若し之を改めれば良いといふ説もあります、又幼稚園は其の結果が良くないといふ點から非難する人もあります、先づ目的に就て申しますと茲に重大な問題はどうも幼稚園杯といふ者は母の天職を奪ふものである、子供の三歳から六歳位迄の間は、大事な時であつて家庭に於て母の溫き手に置かなければならぬ、それを毒の手から奪て大勢一緒にして教へるのは甚だ宜くないといふのであります、是は絶対に幼稚園はいけないといふ考であります、又子供の發達がそれに適せないといふのは一體人間の社會意識といふものはまだ三つや四つでは十分に發達して居ない、社會が發達しない者に共同に物をやらせるのは宜くない、故にもう少し年を取るのを待つてやらせるが宜いといふのである、又幼稚園のやうに子供の小さい時から色々の事をさせるのは身體を害するが絶対いけないといふ人もあります、此身體の害になるといふ事に就ても色々の説があります、單に幼稚園の様なことをさせれば害あるといふのもありますし、又た此頃の所謂小兒病の多い時であつて最も色々の病氣が傳染し易い時であるから早く斯んな所へ子供を出すと病氣に罹るから宜しくないといふのもあります、是れは現在東京であつたことと私の知人杯と幼稚園に出した爲めに二人の子供を失つたというて悔で居る人

あります、以上は何れも絶対に幼稚園はいけないといふ説であり、次には相對的に目的がいけないといふのです、幼稚園の目的は良い事だが社會の何れの階級の子供をも絶対にやるべき處ではない、寧ろ中流以下の子供をやるべきであるといふのです、一體此の頃の子供は母の天職として家庭で保育するがよいが中流下では手が廻らぬから仕方なしに幼稚園の様な所に托するのである、その故手のよく行き届くものはかゝる處へやる必要はないといふのです、

又方法の方から申しますとどうも今のやうなやり方は身體の發育を害する、子供が盛んに育つ時にちつと腰を掛けさして置くやうなことはいけない、方法を變へなければならぬといふのがあります、それから又た物が限られて居て宜くない、而かもフレイベルの特殊の個人的の考へから出來た物をいつまでも使つて居るのはいけぬ、改良しなければならぬといふのもあり、又遊戯も社會的ではよくない、この頃の幼い子供に共同的の遊戯をやらして居るのは間違つて居る、この時代の子供は個人的であるから個人的の遊びをさせなければならぬ、といふのもあります、それから又家庭と聯絡をさせて成るだけ家庭的にさせなければならぬに今の幼稚園は家庭的でないといひ或は自然に親しむといふことがフレイベルの主義であつたにも拘はらず、今の幼稚園は自然に接近させることが少ないといふやうな非難があるのであります、そのから又結果の良くない、非難としては今日一般の幼稚園から小學校に來た者は(一)病的である、(二)不注意である、(三)不勉強である、(四)不謹慎である、といふの類が主なるものです、又私が我國現在の實際教育家から得た報告を概括して見ますと、

短所として擧げられて居ることは茲に概括して擧げたものの外に第一は一般にませて居る、第二は初期の成績良く割合に發達せざるものが多い、第三は學業と遊戯とを同一視し眞面目に勉強せず、第四は多辯である、第五は好奇心が薄い、第六は餘りに人に慣れ過ぎる、第七は遅刻缺席を何とも思はぬ、第八は不規律である、第十は知つた風をする、第十一は依頼心が多い、第十二は忍耐力が乏しいといふの類が主なるものであります、

先づ斯の如く色々の點を概括しまして、公平に判断をして見ますれば、私は幼稚園は目的としては必ずしも非難すべきものではないと思ひます、併しこれは小學教育の如く國家が強制的に必ず児童を茲に入らしめるといふ程のものではない、國家は獎勵の方針を取つて公立でも官立でも模範的に幼稚園を改良して一般に示すのは宜しいが、強制的に児童を入園せしむべきものではないと思ひます、又假令目的は宜しいにしても方法は今後大に改良しなければならぬ、改良さへすれば今擧げたやうな非難を少くして完全な保育の効果を擧げることが出來ると思ひます、保育の結果に就いて利害の説が一致せぬといふのは、幼稚園其ものの性質よりも寧ろ色々の事情から來て居るのであると思ひます、例へば偶々良き幼稚園の保育を受けたものを扱へばその人は幼稚園の効果を良く見る、間違つた方法によつて保育を受けて來たものを扱へば今擧げたやうな色々の缺點を認めるのでありませう、今日の所我國に於ては幼稚園全般の利害に就いて實驗的に斷言することは難いと思ひます、つまり現在の幼稚園の效果に就ての非難は、目的が悪いのではなくして方法が良くないのであります、母の職を奪ふなどといふことは、大きな社會的問題で若し幼稚園がすべて

の家庭の幼児を母の手から親さしめるといふことを強制するやうでは宜くないことです、それでは實際に折角十分な家庭で児童の教養に注意しやうと思ふことを妨げる事になります。

我國の幼稚園に對する希望

最後に我國の幼稚園教育に對する私の意見を申し上げますと、第一には保姆の養成といふことが必要である、總て良き教育を施さうと思つたらば、良き教師を得なければならぬのは申すまでもないこととす、小學教育が今日のやうに進んで来たのは色々の關係もありませうが小學校の教育が是も熱心に研究されて教員の教育に注意されたことが主なる原因です、保姆の教育を盛んにして保姆には自然科学を教へ、それから兒童の生理及心理の知識を得せしめることに重きを置き神話學及童話學を課し手工は自然物を利用して色々の物を拵へるといふ應用方面の研究を主として課し、さうして哲學を教へるが宜い、これは突飛の考のやうであります、教育者には哲學的智識が必要である、現に今日の幼稚園のやり方が色々變つて來まして、或る幼稚園は唯實用を主として居るもあり或ものは心力を開發するといふことが主になつて居りますが、かかる變化は何れも數學的根據から來て居るのであります、保姆は何も知らないで風潮のまに／＼従つて居りますが、これ等に對して自覺せしむるには必ず根本たる哲學を知らしめる必要がなると思ひます、第二には公立のものをもつと獎勵して少くとも一縣に二つなり三つなり立てなければならぬことにして、さうして模範を示すやうにしたい、全體の教育の一部にして總令幼児を必ず入れなければならぬといふ規定はないでもその發達

を獎勵するやうにしたいと思ひます、第三には衛生上の注意を十分にしたい、今日は色々の點に於て衛生の注意が足りないと思ひます、これ等は又機會がありましたならば醫學衛生上から論ずる人があるでありませうが、私等素人から見て慥に今日我國の幼稚園は衛生上の注意が足らぬと思ひます、第四は設備及び保育場を改正することです、今まで幼稚園は唯だ模範的によつて居つたので恩物がこれだけなくてはいかぬとか何がこれだけなければならぬとかいって、何所も千篇一律で變化といふものが殆どない、故に何所へ行つて見ても同じ事をして居るので、是は色々研究し總てをなるといふ簡単にして幼児を室内に入れて置くことは努めて少くして外へ出す機會を多くし腰を掛けさせて置くことよりも、縦令室内に於てもなるべく運動の自由に出來るやうにするが宜いと思ひます、此等も今具體的意見を詳しく述べること出來ませぬが兎に角設備及び保育場を改良し運動場を本位として自然物に接近せしめ尙其保育法に就ても（是は保姆を養成すれば出來る譯であります）今日の狀態を大に改良したいと思ひます、最後に是は我文部省も常に注意されて居る様であります、保姆の位置を高める事です、保姆は今日小學校の教師と同じものに認めない有様であります、それは國家が幼稚園の教育を國家教育の組織の一部分に入れるか入れないかや曖昧であつた爲でありませうが、宜しく小學校と同一にして保護し獎勵して行くことにしたら宜からうと思ひます、尙幼稚園の色々の主義などに就て申したかつたのでありますが、餘り時が掛りましたから略して置きます、以上は唯私の取調べました大體を御話致すに過ぎないのであります、（兒童研究）